

聖路加国際病院 内科チェアマン 聖路加国際病院 内科チーフレジデント
 監修●岡田 定 執筆●水野 篤 小林大輝 山野泰彦 猪原 拓

ヤバレジ：研修1年目レジデント。教科書知識はあるが臨床応用は苦手。お嬢様育ちでひたすらマイペース。

デキレジ：研修2年目レジデント。デキレジとなるも、おとぼけは健在。先輩たちに頼れる先輩と呼ばれたい今日このごろ。

チーレジ：内科チーフレジデント。豊富な知識をもとに後輩指導に励む。面倒見がいいが少し短気なのが玉に瑕。

アテンディング：指導医。レジデントのみんなを、やさしく、ときに厳しく見守る。

連載 第19回

腹痛 ～腹痛をしっかりと鑑別しよう～

山野泰彦

だれもが最初はヤバレジだった
 聖路加チーフレジデントが
 あなたをできるレジデントにします！

First Step：腹痛をみたら、surgical abdomen, 心筋梗塞, 子宮外妊娠の除外を忘れない

Second Step：腹痛の部位に注目して鑑別しよう

Third Step：随伴症状や臨床経過から診断をしよう

First Step：腹痛をみたら、surgical abdomen, 心筋梗塞, 子宮外妊娠の除外を忘れない

- すべての疾患にイえるが、適切な介入が早期に必要な緊急疾患をまず鑑別疾患に挙げよう。その際、全身状態、バイタルサインは常に注目しよう。
- 緊急手術を要する腹部疾患は、腸管穿孔、絞扼性ヘルニア、腸管膜動脈血栓症など多岐にわたる。
- 「腹痛」に着目すればするほど、心筋梗塞と子宮外妊娠はつい忘れがちになるが、鑑別疾患に挙げるこ

とを忘れないようにしよう。

- とくに心窩部痛をみたら、心筋梗塞も考えて心電図の評価は重要。
- 子宮外妊娠を疑ったら、**図1**のようにアプローチしよう。

Second Step：腹痛の部位に注目して鑑別しよう

OPQRSTで評価する

- 腹痛も疼痛であり、OPQRSTで評価しよう。
- OPQRSTとは、O：Onset（発症）、P：Provocation and palliation factor（増悪/寛解因子）、Q：Quality（性状）、R：Region and Radiation（部位と放散の有無）、S：Severity and scale（重症度とペインスケール）、T：Time course（時間経過）のこと。

腹痛の鑑別法

- とくに腹痛がどこから始まったか、疼痛がどう移動したかが大切。
- 疼痛部位による鑑別疾患は**表1**のようになる。臓器

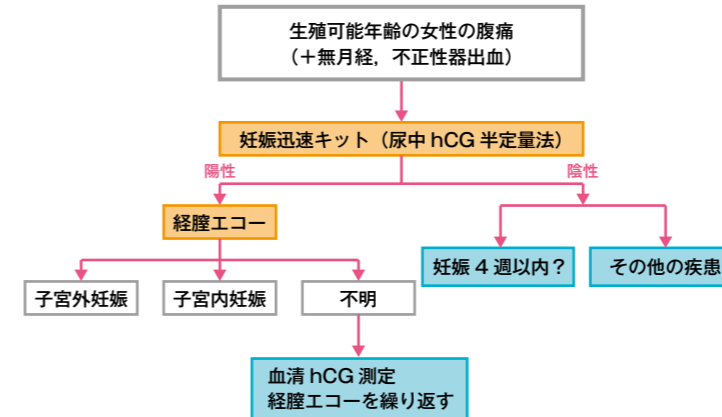


図1 子宮外妊娠を疑った場合のアプローチのしかた

を想定して、その臓器に起きうる疾患を考えながら鑑別しよう。

- 鑑別疾患を挙げることが診断の精度を上げることに繋がる。
- 1つの診断だけに引っ張られないで、いつも複数の鑑別疾患を挙げる習慣を持とう。その積み重ねがあなたの診断力を向上させる。

疼痛の評価～内臓痛？ 体性痛？ 関連痛？～

- 疼痛の評価では、内臓痛か、体性痛か、関連痛かを意識することが大切。
- 内臓痛は、管腔臓器の拡張や実質臓器の被膜が伸展するときに感じる痛み。刺激が痛みの神経が神経叢に入ることによって、各神経叢の分布部位（心窩部、臍周囲、下腹部、身体の中線上）にはっきりしない痛みを生じる。
- 一方、体性痛は腹膜の痛みであり、鋭い痛みが多い。
- たとえば、虫垂炎の早期の痛みは、虫垂の中に腸液が貯留して壁が伸展することにより生じる。これは腸管壁由来の内臓痛であり心窩部痛になる。虫垂炎発症後、時間が経って炎症が周囲の壁側腹膜に及ぶと、腹膜由来の体性痛を生じて、痛みの部位は右下腹部に局限するようになる。

表1 腹痛の鑑別診断

痛みの部位	可能性のある診断
右上腹部	胆管：胆嚢炎、胆石症、胆管炎 大腸：大腸炎、憩室炎 肝臓：膿瘍、肝炎、腫瘍 肺：肺炎、塞栓 腎臓：腎結石症、腎盂腎炎
心窩部	胆管：胆嚢炎、胆石症、胆管炎 心臓：心筋梗塞、心外膜炎 胃：食道炎、胃炎、消化性潰瘍 膵臓：腫瘍、膵炎 血管：大動脈解離、腸間膜虚血
左上腹部	心臓：狭心症、心筋梗塞、心外膜炎 胃：食道炎、胃炎、消化性潰瘍 膵臓：腫瘍、膵炎 腎：腎結石症、腎盂腎炎 血管：大動脈解離、腸間膜虚血
臍周囲	腸：初期の虫垂炎 胃：食道炎、胃炎、消化性潰瘍、小腸腫瘍、小腸閉塞 血管：大動脈解離、腸間膜虚血
右下腹部	腸：虫垂炎、大腸炎、憩室炎、炎症性腸疾患、過敏性腸症候群 婦人科：子宮外妊娠、卵巣腫瘍、捻転、骨盤内炎症性疾患 腎：腎結石症、腎盂腎炎
恥骨上	腸：虫垂炎、大腸炎、憩室炎、炎症性腸疾患、過敏性腸症候群 婦人科：子宮外妊娠、卵巣腫瘍、捻転、骨盤内炎症性疾患、フィブリッド 腎：膀胱炎、腎結石症、腎盂腎炎
左下腹部	腸：大腸炎、憩室炎、炎症性腸疾患、過敏性腸症候群 婦人科：子宮外妊娠、卵巣腫瘍、捻転、骨盤内炎症性疾患 腎：腎結石症、腎盂腎炎
部位不定	腹壁：帯状ヘルペス、筋肉疲労、ヘルニア その他：腸閉塞症、腸間膜虚血、腹膜炎、麻薬離脱、鎌状赤血球クライシス、ボルフィリン症、炎症性腸疾患、重金属中毒

- 局所的ではっきりした鋭い痛み、すなわち体性痛が考えられる場合は、表1を使って痛みの部位の臓器の異常を考えよう。
- 関連痛とは、内臓痛の刺激が脊髄後角に入るときに同じ分節に入る体性求心神経を刺激することによって生じる、特定部位の皮膚の痛みである（表2）。たとえば、不顕性の肝膿瘍が横隔膜へ穿孔しそうなとき、関連痛として右肩に痛みを感じることもある（それが唯一の症状のこともありうる）。